

戸山

新宿区立 戸山小学校

主体的・対話的で深い学び

副校長 福井 みどり

先日の学習発表会にはたくさんの保護者・地域の皆様にお越しいただきありがとうございました。保護者の方からいただいた感想を少しご紹介致します。

- ・0（ゼロ）からオリジナルである発表のシナリオを、先生と子ども達が考えたなんて、本当に驚きです。
- ・学年によって違いがあり、見応えがありました。既存の台本ではなく、学習したものを元に自分たちでストーリーを作ることは大変ですが、愛着もわき良い経験になると思います。子ども達のやりたいことが形になるよう導いて下さった先生方に心から感謝致します。
- ・発表が終わってやりきった満足感と共に、本人にはもう終わってしまったという寂しさも少々あったようです。それ位、夢中になって取り組んでくれた事が親として嬉しく思いました。

保護者や地域の皆様から、たくさんのお褒めのお言葉をいただき、心から感謝しております。

今回の学習発表会は、まさに子ども達が主体的に学び、友達や先生と対話しながら作り上げた表現でした。子ども達の「こうしたい！こうなりたい！」の思いが高まり、作品を作り上げる中でどんどん表現の方法が変わってきたと先生達は話していました。また、ある学年では学習発表会の取り組みが、日々の生活を変えたように思います。ケンカやトラブルに悩む日もありましたが、学習発表会のテーマ「友達が宝もの」を心に刻み作り上げていく中で、互いの良さを知り、仲間がいることへの感謝の気持ちをもてるようになったようです。明らかに学校生活での行動に変化が出てきました。

学習発表会を作り上げる学習過程の中で、子ども達はその主題に迫り、自分たちの生活の中で生きる力として、深い学びを得ました。これは次期学習指導要領の柱である「主体的・対話的で深い学び」の実践だったと自負しております。

戸山小の子ども達と教職員は学校の「宝もの」です。

学年の窓 5年

伝統を受け継ぎ、伝える

5年生は総合的な学習で、地域に伝わる「鉄炮組百人隊」や「オオクボツツジ」について学びました。地域の方や保護者に聞いたり、本やインターネットで調べたりしたことを、紙芝居やポスターなどにまとめる活動をしました。

本校では秋の文化的行事の実施前に、6年生が体育館の用具の片付けを、実施後に5年生が用具の設置をしています。高学年が学校行事を支えている取り組みであり、これもまた、一つの「伝統」です。

今年度も、学習発表会終了後、5年生が体育館を通常の状態に戻す仕事をしました。自分が任されたことを終えると、自ら次の仕事を見付けたり、友達の仕事を手伝ったりと率先して動きました。「他に手伝うことがありますか。」「はい。これも片付けます。」など、気持ちの良い態度で活動を終えることができました。先日行われた就学時健診では、緊張した面持ちではありましたが、新しい1年生を案内する役割をしっかりと果たすことができました。

来年度、最高学年として学校を支え、伝統を受け継ぎ伝えていけるよう、これからも5年生は一步一步成長していきます。

学習発表会

寒い中、沢山の方のご来場ありがとうございました。



《体罰等の実態把握について》

新宿区では、子ども同士の友人関係や日ごろからの教員の指導の在り方を見直す機会として6月、11月、2月を「ふれあい月間」と位置付け、人権教育や心の教育等を推進する取組みを実施するとともに、いじめ、不登校、暴力行為等の問題行動及び、教員の指導の状況について、現状や取組みの効果等を把握するための調査を行っています。

具体的には、各学級で「自分のこと」「友達のこと」「先生のこと」について、アンケート調査を実施しています。

この度、東京都では、体罰の根絶に向けた取り組みの一環として、12月に都内公立学校を対象に、体罰の実態把握に関する調査を実施することになりましたが、新宿区では、11月のふれあい月間の調査から引き続き実態把握に努めています。心配なことがありましたら、学校にご相談ください。

新たに、児童及び保護者のみなさまからご相談いただいた内容については、学校として責任をもって確認し、速やかに対応してまいります。

保護者のみなさまには、学校の取組みにご理解いただきますようお願いいたします。